

第26回 ASW協会全国研究大会

Japan Social Workers Association for Alcohol Related Problems

大会テーマ 「再び一歩を踏み出すために」

26th

2011年11月12日(土)・13日(日)

A

lcohol Related Problems

S

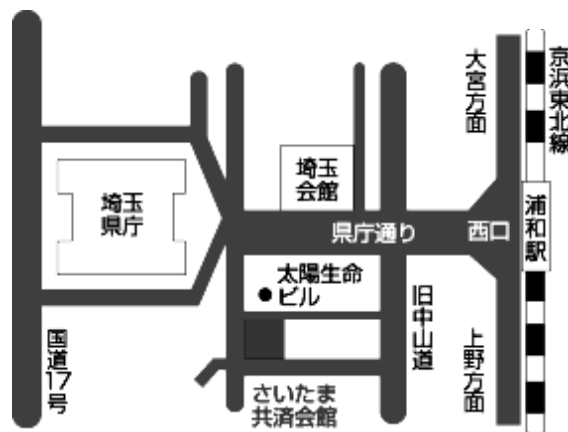
ocial

W

orkers

会場：さいたま共済会館

埼玉県さいたま市
浦和区岸町 7-5-14
浦和駅西口より徒歩約 10分



主催 日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会

後援

社団法人日本精神保健福祉士協会
日本アルコール看護研究会

日本アルコール関連問題学会
埼玉県精神保健福祉士会

第26回日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会全国研究大会

開催にあたって

メインテーマ 「再び一步を踏み出すために」

全国のASW会員の皆様、またアルコール関連問題に関心を寄せていただいた皆様。
第26回の当協会の全国研修大会についてご案内をさせていただきます。

まず、この度の東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

今回の大会は、埼玉県さいたま市で開催いたします。今大会のテーマは、震災について共に考え、回復の一步を踏み出そうという思いをこめて、「再び一步を踏み出すために」といたしました。分科会では過去と現在・未来を展望できる構成にいたしました。

1 日目には「震災とアルコール問題」というテーマで講演とシンポジウムを開催いたします。ASW協会は26年の歴史があり、その中で1995(平成7)年の阪神・淡路大震災を経験しています。関西地域のASW会員は震災後に出現したアルコール問題への対応と回復支援に活躍し、その経験は当協会の大きな財産となっています。今回の講演とシンポジウムでは、その経験を受け渡していただくと共に、現在復興の最中にある東北の地域からの声も届けていただきます。さらに、その支援を行っている会員の活動についても報告していただき、多面的に震災とアルコール問題に迫ります。

1日目の夜は浦和駅近とは思えないレトロな割烹料理店での懇親会です。お楽しみに。

2日目は、分科会を開催いたします。通例は午前・午後の分科会を一日通して行っておりましたが、今回は午前と午後を(テーマは共通するものがありますが)別々の分科会として設定し、お好みで自由に選んでいただくやり方にいたしました。

まず、家族に関する分科会では、長年家族の支援を続けられたベテランのワーカーの経験をお聴きする分科会です。入院プログラムの中で濃厚なグループを行っている関東の例と地域の自助グループとの連携を軸に取り組んでいる関西の例をお話いただくので、家族への関わりについて多くの示唆がいただけると思います。

埼玉県は東京から東北地方や信越地方に向かう交通の拠点として、古くから栄えた土地です。アルコール依存症のリハビリ施設として老舗のマックの前身である大宮ハウスが1975(昭和50)年に開設されたのも大宮でした。その時代に入所していたオールドタイマーと若き日に生活保護のワーカーとして担当していた方に当時を語っていただく分科会を設けました。また、現在の埼玉県内でのアルコール問題のアクチュアルな「多問題・重複障害ケースにおける支援」について考える分科会も行います。

埼玉では薬物依存症への取り組みが進んでいます。そこで薬物依存症の関わり方の知恵をいただき、アルコール問題に関わるワーカーがさらに薬物問題に取り組むための分科会と地域での医療・司法・リハビリ施設などの連携を考える分科会を設けました。

アルコール問題への入門としては、経験5年目ぐらいの方を対象として、演習なども盛り込んだ基礎講座を開催いたします。こちらは午前・午後と分けずに一日単位になっておりますが、今一番油の乗っている中堅の会員による意欲的な企画です。

さあ皆様、さいたまの地で「再び一步を踏み出すために」集まり、語らしましょう。

第26回日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会全国研究大会 大会長
さいたま市こころの健康センター 岡崎 直人

タイムスケジュール

11月12日（土） 一日目 開会式・公開講演・公開シンポジウム・総会等

9:00～12:00 理事会(505)

12:30～受付開始

13:00～開会式（ホール）

会長・大会長挨拶
事務局からのお知らせ

13:15～14:30 公開講演（ホール）

講師 麻生 克郎 氏（垂水病院 副院長）
テーマ『震災とアルコール問題』

14:30～14:40 舞台準備&休憩

14:40～16:30 公開シンポジウム（ホール）

テーマ『震災とアルコール問題』

司会	藤田 さかえ 氏	(久里浜アルコール症センター)
シンポジスト	斎藤 光央 氏	(東北会病院)
	中村(土井) 寛子 氏	(神戸保護観察所(前・神戸市役所))
	野村 祥平 氏	(久里浜アルコール症センター)

17:00～18:45 法人化説明会・ASW 協会総会（504）

19:00～ 懇親会

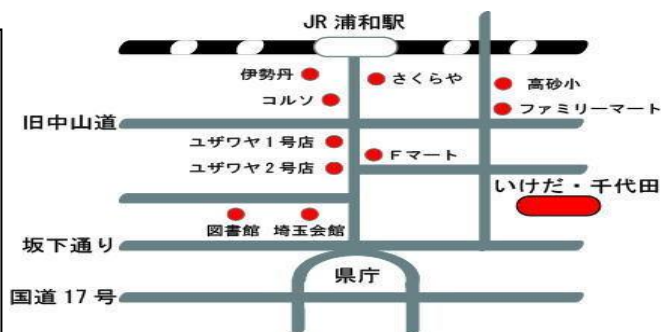
♪ 懇親会会場 ♪

割烹千代田

さいたま市浦和区岸町 7-4-6

TEL048-829-2881

<http://www.urawa-chiyoda.jp/>



11月13日（日） 二日目 基礎講座・分科会

9:00～受付開始

○基礎講座 9:00～12:15

13:20～16:30

○分科会 9:30～12:00

13:00～15:30

分科会 I-A

分科会 I-B

分科会 II-A

分科会 II-B

分科会 III-A

分科会 III-B

終わり次第 各会場で閉会となります。

※ 大会事務局は 503 号室です

公開講演 (11月12日 13:15~14:30)

公開シンポジウム (11月12日 14:40~16:30)

『震災とアルコール問題』

今年3月の東日本大震災の発生から半年が過ぎようとしています。ASW協会は1995(平成7)年の阪神大震災では、関西を中心に貴重な経験をし、熱心に活動を行いました。それは、ASW協会全体の大切な財産であると思います。

現在、震災地では被災者の方々が避難所から仮設住宅へ移っていますが、今後はアルコール問題の発生に注意を必要とする時期となってきます。

こうした現状を踏まえて、今回、ASW協会では「震災とアルコール問題」というテーマで講演とシンポジウムを企画しました。

講演には、阪神大震災の現地で活動され、その後もアルコール問題に取り組んでおられる神戸の垂水病院副院長麻生克郎先生をお招きしました。阪神大震災のご経験から災害とアルコール問題についての基礎的な理解と、関係者がどのような視点でこの問題に取り組めば良いのかといったこととお話しいたします。

シンポジウムでは、震災の現地という立場、阪神大震災の経験者の立場、そして支援に派遣された立場から、3人のソーシャルワーカーのシンポジストからの話題提供をしていただき、会場の参加者と共にこの問題を考え、支援の輪を広げていきたいと思えます。

今回は、ASWやソーシャルワーカーという立場を超えて、多くの方に参加いただくために「公開講座」として、当日、予約なしの参加も歓迎する形にいたしましたので、多くの皆様のご参加をお待ちいたします。

公開講演 (13:15~14:30)

講師：麻生 克郎 氏 (垂水病院 副院長)

司会：岡崎 直人 氏 (さいたま市こころの健康センター)

公開シンポジウム (14:40~16:30)

シンポジスト 齋藤 光央 氏 (東北会病院)
中村(土井) 寛子 氏 (神戸保護観察所(前・神戸市役所))
野村 祥平 氏 (久里浜アルコール症センター)

司会 藤田 さかえ 氏 (久里浜アルコール症センター)

基礎講座 11月13日 9:00~12:15 13:20~16:30

『初任者研修 ー今の実践に向き合ってみようー』

今年の基礎講座は、ソーシャルワーカーとしての経験5年くらいまでの人を対象にして、「アルコール依存症の支援の基本（本人と家族）について講義にて学ぶこと」

「同じ程度のキャリアの人の実践報告を聞くことで、現在の自分の業務実践の状況や環境について振り返る時間を持ち、『今の自分』で明日からできることを考え、また、今後の自分のSWとしての課題を発見することにつなげること」を研修目的に参加型研修として開催します。

タイムスケジュール&講師

9:00	～	9:10	オリエンテーション
9:15	～	9:45	演習1 「自己紹介と参加動機の確認」
9:45	～	11:00	講義1 「アルコール依存症の基礎知識本人への関わり方を学ぶ」 講師 増野 真紀 氏（医療法人信和会 高嶺病院）
11:00	～	11:45	演習2 「自己実践の振り返り」
11:45	～	12:15	発表1 2, 3名の方に報告をしていただきます

昼食・休憩

13:20	～	14:40	講義2 「アルコール依存症の家族に関する基礎知識 家族への関わり方を学ぶ」 講師 山本 由紀 氏（上智社会福祉専門学校 遠藤嗜癖問題相談室）
14:45	～	15:15	演習3 「自己実践の振り返り」
15:15	～	15:45	発表2 2, 3名の方に報告をしていただきます
15:50	～	16:30	全体の振り返り ー終了

講師	増野 真紀 氏（医療法人信和会 高嶺病院）
	山本 由紀 氏（上智社会福祉専門学校・遠藤嗜癖問題相談室）
企画・運営	鈴木 詩子 氏（こころのクリニックなります）
	豊田 秀雄 氏（こまごめ緑陰診療所）

*基礎講座は他の分科会と比べ、開始・終了時刻が違いますのでご注意ください

分科会 I—A 11月13日 9:30~1200

『家族に関わるということ～家族プログラムの経験から～』

アディクションの臨床領域において、家族自体をクライアントとしてとらえて介入することは、既に久しく常識と言われていています。一方、実際は多くの治療機関において、家族はクライアントとして扱われず、取り組みも教育プログラムへの導入のみになってしまうことが多いようです。

この分科会では家族向けの集団プログラムに関わり続け、家族自身の回復を支援してきた立場から、家族に関わることがどういうことであるのか、家族の回復とは何を指すのか等をお話していただく予定です。

当日は、講師の樋田さんをグループサイコセラピストとして、参加者にはグループ体験を通しながらともに学んで行く形式を予定しています。

講師 : 樋田 洋子 氏 (赤城高原ホスピタル 精神保健福祉士
集団精神療学会認定グループサイコセラピスト)

分科会 I—B 11月13日 13:00~15:30

『誰でも出来る効果的な家族教室の仕方』

最近、各地で行われてきたアルコール依存症家族の家族教室が中止になったり、参加される方が少なくなってきている話をよく聞きます。確かに毎週家族教室をやっていると、時にマンネリ化して、やっているワーカーも楽しくなくなってきました。ましてや参加する家族は時間とお金をかけて参加するのですから、魅力がなくなれば来なくなります。

一方、ワーカーの仕事は毎日余りにも多忙であり、雑多な仕事を引き受けなければなりません。家族のことばかりに時間を使っているわけにはいかないのです。その状況の中で、特に優れた技術も長年の経験もないワーカーがどのように運営していけば、参加者にとっても、ワーカーにとっても魅力ある家族教室が実施できるのか。そのひとつの形を提案してみようと思います。新しく家族教室をやってみようと思う方、家族教室がマンネリ化してきた方、家族援助に自信がなくなってきた方、一緒に気楽に考えてみませんか？

講師 : 坂本 満 氏 (新阿武山病院 医療福祉部 次長 精神保健福祉士)

分科会Ⅱ—A 11月13日 9:30~12:00

『大宮ハウスの時代、そしてマックの時代 ～マックプログラムに流れているもの～』

現在、15団体41施設あるマックのはじまりを皆さんはご存知ですか？
それは、昔々、今から35年ほど前に遡ります。ところは、今回の大会開催地さいたま。

マックの前身であるメリノールレジデンス（通称：大宮ハウス）は1975年4月に故ジョン・ミニ神父によって設立されたハーフウェイハウス（アルコール依存症からの回復施設）です。その流れは、1978年三ノ輪MACの開設へ、そして現在へと脈々とつながっていくこととなります。

当時、福祉事務所のケースワーカーとして、ミニ神父と出会い、大宮ハウスに足しげく通っていた井上茂氏と大宮ハウス出身で元みのわマック所長である山本晋一氏のお二人をゲストに迎え、当時さながらの和やかな雰囲気の中、大宮ハウスの時代のお話を聞いていく分科会。

若い世代のソーシャルワーカーにも、マックに馴染みの深いベテランソーシャルワーカーにも、ぜひこの機会、この地さいたままで聞いてほしい。語り継ぎたい物語。ぜひご参加ください。

講師 : 井上 茂 氏 (全国マック協議会議長・元さいたま市保健福祉局福祉部長)
: 山本 晋一 氏 (元みのわマック所長)

分科会Ⅱ—B 11月13日 13:00~15:30

『多問題・重複障害ケースにおける支援』

現在、埼玉県内にはアルコール依存症の専門治療を行っている医療機関が約8か所あり、行政やさいたま MAC 等の施設、自助グループと連携を取りながら、アルコール依存症からの回復の支援を行っています。

私たちは、アルコール関連問題に専門職として関わるために必要な知識と、さいたまマック設立に至るまでのような、この問題への当事者を始めいろいろな人たちの経験とつながりを学びながら、日々の業務にあたっています。

その中には、アルコール問題だけではない生活のしづらさの問題を抱えており、アルコール依存症からの回復を考える時、自分たちに何が出来、どう関わっていくことができるのか、どう関係機関と連携をとっていくのがよいのか、悩みながら支援を行っているケースも少なくありません。

今回、実際に悩みながら支援を実践している三つの事例報告を通して、皆さんと検討を行いながら、今後の支援の課題やヒントを一緒に見つけていきたいと思っています。

高齢者の事例 : 丸山 緒乃津 氏 (埼玉県済生会鴻巣病院)
統合失調症の事例 : 斉藤 美鈴 氏 (白峰クリニック)
貧困問題の事例 : 中野 綾香 氏 (特定非営利活動法人ほっとポット)
司会 : 小笠原 裕子 氏 (白峰クリニック)

分科会Ⅲ—A 11月13日 9:30~12:00

『薬物依存症にもっと関わろう』

アルコール依存症を治療・支援対象とする医療機関や相談・リハビリ機関は、全国にほぼ満遍なく広がっています。しかし、薬物依存症に関わる諸機関は少なく、とても充分とは言えない現状です。

この分科会では、アルコール・薬物依存症の双方の治療に大変成果を挙げ、地域支援にも尽力されている成瀬先生を講師としてお呼びし、アルコール依存症に関わる関係者が薬物依存症に積極的に取り組むことができるような知恵と力をいただきます。

講師 : 成瀬 暢也 氏 (埼玉県立精神医療センター 副院長)

分科会Ⅲ—B 13:00~15:30

『地域における薬物依存症患者への支援を考えよう』

— 司法機関との連携を中心に —

近年、司法領域における薬物依存症患者への支援に変化がみられます。罰するだけでなく、回復支援につなげる必要があるとして、刑務所などの矯正施設・在宅処遇を行う保護観察所と民間リハビリ施設であるダルク等との間で連携が強化されつつありますが、マンパワー不足や社会資源の不足等、様々な課題も見えてきました。

本分科会では、埼玉ダルク施設長の辻本俊之氏、さいたま保護観察所の横地環氏をお招きし、これまでの取り組みと課題についてお話しいただきます。辻本氏は、多くの薬物依存症患者への支援を行っており、さいたま市において関係機関とのネットワーク作りに尽力されています。また、横地氏には主に保護観察所の薬物プログラムやダルクとの連携についてお話しいただきますが、司法機関における薬物依存症患者への地域支援について深めることができる貴重な機会になると思います。

薬物依存症患者が地域生活をする際にどのような支援が必要か、皆さまと一緒に考えたいと思います。

講師 : 辻本 俊之 氏 (NPO 法人埼玉ダルク 施設長)
: 横地 環 氏 (さいたま保護観察所 統括保護観察官)

FAX 専用 参加申し込み書

第26回日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会 全国研究大会 参加申し込み書

FAX 送信先：0279-56-8847

赤城高原ホスピタル コ・メディカル部

TEL：0279-56-8148

Mail：kotiasw@hotmail.co.jp

送信票をつけずに送信してください。

お申し込み期限：10月31日（月）

※下記にご記入の上、必ず Fax でお送りください。お一人様につき1枚ご使用ください

お申し込み日：2011年 月 日

フリガナ

氏名： (事務局記入欄 No.)

所属： (職種：)

連絡先： 所属 自宅 (確認書などをお送りする場合がありますのでチェックを入れてください)

住所(〒)

TEL / FAX

E-Mail：

申し込み内容 (下記の□にチェックを入れてください)

両日参加 (会員：4000円 / 非会員：6000円 / 学生：2000円)

基礎講座のみ (4000円)

参加希望プログラム ※申し込み多数の場合には当日調整させていただく場合があります。

基礎講座「初任者研修 ～今の実践に向き合ってみよう～」

分科会午前の部

分科会Ⅰ-A「家族に関わるということ～家族プログラムの経験から～」

分科会Ⅱ-A「大宮ハウスの時代、そしてマックの時代～マックプログラムに流れているもの～」

分科会Ⅲ-A「薬物依存症にもっと関わろう」

分科会午後の部

分科会Ⅰ-B「誰でも出来る効果的な家族教室の仕方」

分科会Ⅱ-B「多問題・重複障害ケースにおける支援」

分科会Ⅲ-B「地域における薬物依存症患者への支援を考えよう」～司法機関との連携を中心に～

懇親会 (5000円)

ファックスでお申し込みいただいた後、お申し込み内容にしたがって参加費を下記口座にお振込みください。

お振込みが確認でき次第、受付と致します。(確認書等は発送いたしませんのでご注意ください)

振込額：参加費 会員 4000円 非会員 6000円 学生 2000円 基礎講座のみ 4000円

+ 懇親会 5000円 = _____円

振込み：ゆうちょ銀行 0三八店 (ゼロサンハチ 店) 店番：038 預金種目：普通 口座番号：8293737

※郵便局よりお振込みの場合は、記号番号が10310-82937371となります。

口座名：第26回日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会全国研究大会運営委員会